

造血幹細胞移植を視野に入れて 考えておられる患者様と家族様へ

～はじめに～

先生から移植治療についてお話を受けてこられたと思います。移植後のイメージはついていますか？漠然としたイメージではなく、ある程度理解をした上で治療に挑む必要があります。「こんなはずではなかった・・・」「こんなことまでしないといけなかったの?!」と思うことがないように治療前から理解を深め、準備していきましょう。

これからするお話は移植後の体の変化、退院後の生活の中で家族やケア支援者にお手伝いしていただく内容を具体的に書いています。



移植したらどんな体の変化がおきるの？



眼

ドライアイ・充血・ゴロゴロする・視力低下

口

ドライマウス・口内炎・味覚障害

肺

咳・息切れ

関節

こわばり・関節痛・手の震え・関節可動域の低下
(屈曲・伸展ができない)

肝臓

けだるさ・黄疸

消化管

嘔気・嘔吐・食欲不振・下痢・便秘・
嚥下機能の低下

筋肉

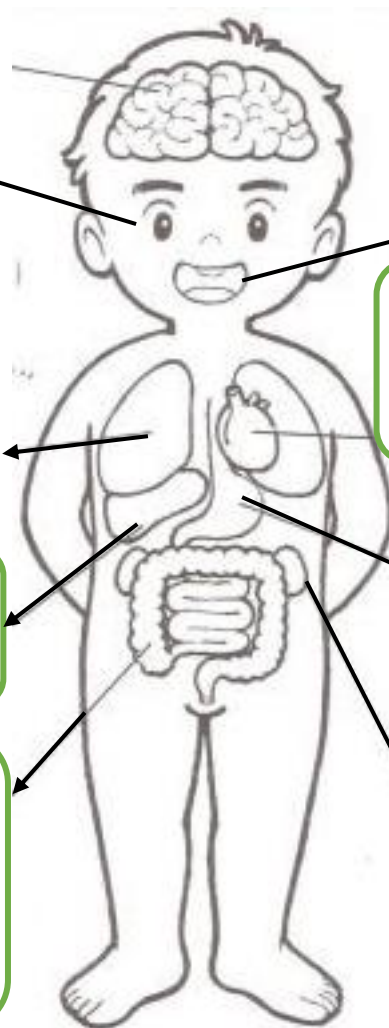
筋力低下・筋肉痛・転倒・寝たきり
(退院直後は階段昇降できない)

皮膚

皮疹・黒ずみ・皮膚がこわばる・硬くなる
爪がもろくなる

排泄

頻尿(夜間)・膀胱炎・尿失禁



2016年3月15日作成

※注意:上記症状は一例です。すべての方にすべての症状ができるわけではありません。



どんなお手伝いが必要なの？ (家族の役割)



食事編



・基本的には外食はできません。コンビニ食品や冷凍食品などを購入したり、自宅で調理してください。移植後より、手のしびれ・ふるえ・味覚障害から自己にて調理できない場合があります。

掃除編



・移植後は免疫が弱いため、感染症の予防が必要です。こまめに掃除してください。患者本人が掃除することで感染症にかかりやすくなるため、家族の方が掃除をしてください。(特に真菌感染で再入院されるケースが多いです)

清潔編



・筋力が低下しているため、浴槽をまたいだりすることで転倒する危険性があります。入浴するときは介助や見守りが必要です。

・移植後の反応により、皮膚が乾燥したり皮疹などが出たりします。1日2回の軟膏塗布が必要になることがあります。自己にて塗布できない場合は介助が必要です。

・薬の副作用で手先のしびれや震えがあります。ボタンをかけたリ、チャックを閉めたりすることができない場合があるため介助が必要です。

日常生活編



- ・筋力低下から床からの立ち上がりや階段の昇降ができません。廊下に手すりをつけたり、立ち上がりや階段昇降時に介助が必要です。
- ・夜間トイレに行くことが多いです。尿意が近く、オムツを着用していることもあります。トイレに近い部屋を寝室にしてください。
- ・時間の決められた薬があります。(退院後半年～年単位での内服が必要)。飲み忘れや飲み間違いによりGVHDや感染症を引き起こし、生命に関わることがあります。きちんと飲めているか患者本人と一緒に確認が必要です。

・急な状態悪化を起こす可能性があります。1人になる時間を出来るだけ減らす努力が必要です。社会資源の利用(訪問看護やヘルパー利用など)を視野に入れて考える必要があります。

通院編



- ・退院後は1週間に1回は外来通院が必要です。検査内容・輸血などによっては1日かかることがあります。退院直後は体力が低下しているため、家族の付き添いが必要です。
- ・状態が急に悪化した場合は救急車を呼ぶことがあります。状態悪化時の対応を考え準備しておく必要があります。

移植後のイメージや家族の役割 について理解できましたか？



移植することにより、さまざまな体の変化がおきます。今までできていたことができなかったり、日によって体調が変わることが多くあります。

そのため、患者さまだけでは生活することが難しく、家族の応援体制・環境調整が必ず必要です。

移植前から移植後の生活を見据えて準備していきましょう。わからないこと・困っていること・不安なことなどあれば、医療者スタッフへの相談してください！

